

## 小名浜港の将来の空間利用(案)に対する県民意見一覧

整理番号	ページ	意見	県の考え方
1	9, 13, 14	<p>私達が考える小名浜港の持続可能な空間利用のポイントは中短期計画と長期計画に分けて検討する、その分岐点は防波堤の完成だと考えます。</p> <p>○中短期：西防波堤内側しか活用できない中で活性化を望む 船の大型化に対応する各ふ頭の改良、東北のコンテナバースは水深13-14m、延長260m以上が主流、改良して貨物を大量に輸送することがコストダウンとなる。また内陸に工業団地が増える中、貿易物流の99.6%を占める海運の玄関口として小名浜港を発展させるのは必須。土木技術の向上で岸壁の増深及び延伸は、矢板方式、桟橋方式、可塑性グラウト方式等で実施可能、改良する埠頭を段階的に施工すれば供用しながらの整備を検討できるし岸壁の長寿命化にもなる。</p> <p>防災面でも急がれる沖防波堤は約90函のケーソンが必要、国の製作ヤードに加えフローティングドック船を使えば年間10函以上施工可能となり10-15年で完成する。</p> <p>東北の大型クルーズ船は、青森の40隻を筆頭に10隻以上が寄港して、大きな経済効果を生んでいる。中短期では3-4号が埠頭の貨物との調整が厳しいが、東港岸壁もを利用して寄港の増加を計り、福島の活性化に寄与する。</p>	ご意見のとおり、船舶の大型化による大量輸送のメリットやクルーズ船の寄港が経済効果を生むことは認識しており、本案においても、「大型のコンテナ船に対応した岸壁を整備する」や「大型の国際クルーズ船も受入可能な施設を整備する」を対応案として示しております。
	6, 10, 13	<p>○長期：防波堤が完成して港湾区域が広くなった時点での整備を考える</p> <p>港湾区域の静穏度は良くなると、東港を拡張して、カーボンニュートラル対応など東港航路利用、岸壁とヤード不足を解消できる。45函以上必要なケーソンだけでなく用途に応じて鋼管矢板やセルを活用すると短期施工を実現できる。</p> <p>沖防波堤が出来ると、静穏度が良くなり三崎航路を拡幅できる 三崎航路拡幅は大型クルーズ船が物流区域を通らず東港航路、三崎航路から交流区域の1, 2号埠頭へ係留することも可能となる。西、三崎防波堤の一部撤去、浚渫、岸壁増深及び延長も技術的に可能であり賑わいの創出を拡大する。</p>	ご意見のとおり、港内の静穏度向上の重要性は認識しており、本案においても、「外郭施設の整備を推進する」を対応案として示しております。
2	11, 12	交流拠点として東港地区、及びマリンブリッジの利活用を改めてご検討いただきたい。2016年に策定された長期構想（未来への羅針盤）では《臨海部における親水空間の形成やクルーズ客船の誘致による交流空間の創出》実現の取組みとして《多様な親水空間の創出や海面の利活用》を掲げ、その内容に《1・2号ふ頭地区、3号ふ頭及び東港地区における親水空間の拡充、回遊性の確保》を挙げられていたが、現案での交流拠点の《目指すべき方向性》においては、賑わい創出の観点からも、回遊性の創出の観点からも3号埠頭が抜け落ちている。巨大建造物たるマリンブリッジと人工島・東港はそれだけでインフラツーリズムの対象となるし、視覚的に小名浜港の新たな象徴にもなり得る。釣り公園としての可能性もあるだろう。そうした施設を産業目的に限定せざるは余りにも惜しい。	東港地区的活用の重要性は認識しております。いただいたご意見もふまえ、引き続き、空間利用（案）を検討してまいります。
	11, 13	<p>《駐車場の確保》に関して、ら・ら・ミュウの道の駅化の影響から「二輪車を含めた」のような修飾をしてはどうか。</p> <p>潜在的な課題となるだろうが、観光交流目的の車両と産業目的の車両が交錯する可能性の増大について触れなくてもよいか。また《駐車場の確保》だけでは対応は不十分であり、駐車場情報の可視化などが求められる。「確保及びその利便性向上」のような書き方がよいのではないか。</p> <p>課題として、現在の3号埠頭はクルーズ船受け入れ施設として、石炭が野積みになっているなどイメージが良くない。《環境整備》は別項目にして「クルーズ船受け入れにふさわしい環境整備」のような書き方をしてはどうか。</p>	今後の港湾運営の参考とさせていただきます。
3	5	<p>防災拠点づくりに関して、次期いわきFCスタジアムやイオンモール小名浜店と連携し、「次世代の防災拠点」を構築して頂きたいです。</p> <p>物流拠点づくりは「小名浜道路」と「港湾道路」「6号バイパス」のアクセスルートの改善や、線形改良を含め、渋滞解消は勿論、交通の活性化、物流輸送の効率化を視野に入れて、インフラ構築をして頂きたいです。</p> <p>交流拠点づくりは、「福島臨海鉄道」小名浜駅の旅客輸送の再開と両輪で、「アクアマリン」「道の駅 ららみゅう」「イオンモール小名浜」「いわきFCスタジアム」の観光客誘致や交流人口拡大を視野に入れ、海浜地区ならではのぎわいを創出して頂きたいです。</p>	各実施・管理主体となる関係機関と連携し、対応してまいります。

## 小名浜港の将来の空間利用(案)に対する県民意見一覧

整理番号	ページ	意見	県の考え方
4	4, 5	<p>総論として重要なのは、小名浜港において「物流拠点」と「交流拠点」の2つの機能を共存させることだと考えます。スタジアム建設により交流機能を最大限に強化してほしいと願う一方、それによって物流機能がマイナスの影響を受けることは好ましくありません。両者の共存に、特に意を用いて頂きたいと考えます。</p> <p>上記の観点から、現長期構想の「高度な物流機能と交流空間を兼ね備えた魅力ある港へ」という視点をより明確にしていただきたいと考えます。</p>	3つの拠点（物流・交流・防災）の共存が必要であると認識しております。長期構想に関する貴重な意見として受け止めさせていただきます。
	11, 12	<p>今後的小名浜港の変化においてきわめて大きなファクターは、サッカースタジアムの建設です。スタジアムにより交流拠点としての小名浜港のあり方は劇的に進化します。集客力も大幅に拡大し、それに伴う課題も生じます。しかし、本構想案でスタジアムについての記載は、この2ページの写真の中に「候補地」とあるだけで、これを小名浜港にどう位置づけるかが一切書かれていません。これはスタジアムの役割を過小評価するものと感じます。</p> <p>5ページの「小名浜港の将来像」には、「観光振興を支える県内の交流拠点」という記載がされていますが、スタジアムによる集客は市外からの観光客が来訪するという経済的側面だけではなく、市民にとっての重要な交流拠点でもあります。スタジアムはそもそも経済的側面だけではなく、社会課題へのアプローチを志向している点が重要です。多くの市民がスタジアムを訪れ、人々の出逢いがあり、何かを学び、感動や勇気などの生きる力を与えられる空間を志向しています。それはサッカーの試合のない多くの時間において、いわきの人々の暮らしと不可分の存在です。</p> <p>こうした新たなファクターが誕生しようとしている中、その全貌が明らかではない現状だったとしても、「20～30年先の長期的視野」に立つ構想にスタジアムの位置づけがないのは妥当ではないと考えます。</p>	民間事業者等が小名浜港内にサッカースタジアムの整備を検討していることは認識しております。なお、建設候補地は空間利用(案)の交流拠点ゾーンに含まれております。
	12	<p>「いわきサンマリーナの再整備を推進する」との対応案を評価します。震災後、民間の経営主体が不在となり、サンマリーナのあり方が宙に浮いてきました。</p> <p>このマリーナには大きな可能性があります。カジキ漁場への絶好のロケーション、関東圏の慢性的なマリーナ不足、米国西海岸から太平洋を横断した際に最短距離にある立地などです。必要な整備を施すことで多くのクルーザーオーナーに選ばれる大きな可能性があります。1～3号埠頭との回遊性を記載した点も評価します。</p>	長期構想に関する貴重な意見として受け止めさせていただきます。
	13, 16	<p>13ページの破線の囲み部分、16ページの縁で着色された「交流拠点ゾーン」が交流拠点との認識かと思います。16ページの色分けではマリンブリッジも交流拠点に区分けされている点を評価しますが、東港地区の「緑地」エリアも交流拠点に位置づけるべきです。東港には構想段階から現在に至るまで一貫して、市民などが憩う場所としての「緑地」を配置し、港湾計画でもそのように位置づけられています。今日に至るまでその整備を行っていないのは福島県の不作為と考えます。スタジアム整備後、小名浜港の集客力を最大化すべきです。</p> <p>それには、人々が楽しめるコンテンツの数が多ければ多いほど良いのです。その点で、東港の緑地は物流機能を阻害しないようにエリア分けを明確にした上で、整備を進めるべきと考えます。同様に、マリンブリッジも休日は一般の方が全面的に往来できるよう開放すべきで、この両者を交流拠点としてきちんと位置づけるべきと考えます。</p>	東港地区的活用の重要性は認識しております。いただいたご意見もふまえ、引き続き、空間利用(案)を検討してまいります。
	16	<p>また、交流拠点としてのアクアマリンパークは、当初は1・2号埠頭間のみだったものが、現在は3号埠頭まで拡大し、大型商業施設イオンモールがエリアに隣接する状況にあります。このエリアにスタジアムという大きなファクターが加わるわけですが、さらにいわき市は、三崎公園を再整備する構想を持っており、三崎公園と従来のアクアマリンパークを機能的に繋げる考えです。</p> <p>14ページの図では小名浜港のエリアを大剣埠頭から漁港区までと認識しているようですが、今後は3号埠頭から三崎公園までを一体的な交流拠点として形成することになります。三崎公園は港の一部ではありませんが、小名浜港と連続性を持ったエリアとして本構想の中でも認識すべきと考えます。</p>	関連する周辺施設の状況を注視し、他構想との連携については、別途対応していきます。